

最初の“天下人”・三好長慶の居城



# 芥川山城跡

芥川山城(あくたがわ さんじょう)は、北・西・南の山裾を芥川がめぐる天然の要害・三好山(標高182.69m)に築かれた戦国時代の山城です。摂津・丹波の守護・細川高国によって、永正13年(1516)までに築城されました。その様子は、昼夜を問わず300～500人が動員される大工事であったといえます。

この後、高国を自害に追い込んだ細川晴元が滞在しますが、晴元を追放した戦国大名・三好長慶が天文22年(1553)に入城します。長慶は将軍を擁立することなく畿内を支配し、人々から天下人との評価を受けるに至ります。芥川山城は、「天下人」の政治の舞台や文化交流の場となりました。

長慶没後の永禄11年(1568)、将軍・足利義昭を擁して上洛した織田信長の軍勢に三好一族は城を追われ、義昭の重臣・和田惟政が城主となります。惟政が平地の高槻城に移ってからは、高山飛騨守・右近父子が城を預かりますが、やがて芥川山城は廃されました。

最大で東西約500m×南北約400mに広がる城域には、最高所に主郭を配し、幾重もの曲輪と土塁・堀切などの防御施設が設けられました。現在でも、城跡を歩くと豎土塁や土橋、虎口、石垣などの遺構をみることができます。戦国時代屈指の山城である芥川山城は、平成29年3月に公益社団法人 日本城郭協会によって「続日本100名城」に選ばれています。



北側上空からみた芥川山城跡



大手石垣

見学に際しては、次の点に注意してください。

- 1 駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください
- 2 付近、及び山城跡一帯にトイレはありません
- 3 城跡は私有地です。地元の方のご迷惑となるような行為は慎んでください
- 4 現地の地下には貴重な戦国時代の遺構が埋まっています。地面を掘り起こしたり、石やかけらを持ち帰ったりすることは、厳に慎んでください
- 5 城跡は整備された史跡ではありません。木が生い茂り、虫や蛇もいます。危険な場所がありますので、ご注意ください

さらに詳しい情報は、

続日本100名城 芥川山城跡

検索

で検索！



